

時ニ外國ノ國籍ヲ離脱セルノ證據ヲ提出セサル限り米國市民トシテ公權及私權ヲ享有セシメザルコトトスルノ外ナシト論シタリ

- (2) 然ルニ帝國政府ノ立場ハ (イ) 國籍法ノ改正ニ關シテハ日本カ屬人主義ヲ採レル關係上其間ニ牴觸ヲ生スルハ已ムヲ得サル事態ニシテ外國ニ生レ外國國籍ヲ取得シタル者ハ當然日本ノ國籍ヲ喪失ストノ規定ヲ設クルカ如キハ我法制ノ根本主義ニ悖反ス從テ斯ノ如キ國籍法改正問題ハ解決條件ニ加フルコトヲ欲セス (ロ) 尤モ茲ニ國籍ニ關スル條約ノ締結ニヨリ相互的ニ實際上ノ不便ヲ除却スルカ如キ方法ハ一案ナルヘク主義ニ於テ異議ヲ稱ヘサルモ其内容ハ專門的ノ調査ヲ必要トシ此際急速ニ取纏メ難ク爲ニ主體ノ問題ノ解決ニ支障ヲ來スヘシ又 (ハ) 米國ニ出生シタル日本人ハ當然日本國籍ヲ有セサルコトニ我國籍法ヲ改ムルモ之カ爲私權享有ニ關スル最惠國待遇ノ保障ヲ得ルニ過キササルヲ以テ「フイーラン」一派ノ唱道スル歸化權ナキ兩親ヨリ生レタル子ニ米國國籍ヲ與ヘスト云フカ如キ憲法修正案ニ對抗スヘキ條約上ノ根據ヲ獲得スルモノニアラスト云フニアリ

- (3) 幣原大使ハ帝國政府ノ立場ヲ十分含ミ二重國籍問題ヲ協議會ノ主要問題解決ノ條件トセサル様「モリス」大使ヲ説得スルニ努メタルモ同大使ハ (イ) 本問題ニ觸ルルコトナクシテ日本人間

- 題ノ解決案ヲ講スルモ議會ノ承認ヲ得サルニ於テ一大難關ニ逢着スヘキコト (ロ) 元來日本人排斥ハ日本人ノ同化力ナキコトヲ理由トス而テ其理由ヲ根底ヨリ打破セムカ爲ニハ日本人ニ十分機會ヲ與ヘテ同化力ヲ發揮セシムルヲ要スルヲ以テ二重國籍ハ排日運動ノ萌芽ヲ他日ニ貽スモノナリ (ハ) 或ハ二重國籍ヲ避ケムカ爲更ニ條約ヲ締結スルモ一案ナルヘク米國ト「プロシヤ」トノ間ニ其先例アリト述ヘタリ

- (4) 幣原大使ハ (イ) 日本ニ於テ其法制上ノ根本原則タル屬人主義ハ變改スルコト不可能ナルコトヲ反覆説述シ (ロ) 若シ此問題ニ關シ意見合致ノ望ナキ以上結局米國ハ外國ノ國籍ヲ喪失セリトノ證據ナキ米國出生者ニ對シ米國人民ト同一ノ權利ヲ與ヘサル法律ヲ制定スルモ可ナルヘク其法規カ一般的ナル限り異議ヲ唱ヘサルヘク (ハ) 條約ニ依ル解決ハ日本ニ於テ到底同意セサルヘキコトヲ明言シ本問題ニ關シテハ何等具體的解決ヲ見スシテ終レリ

第二節 幣原「モリス」協議終了後ニ於ケル日米交渉

第一、共和黨政府ノ出現ト華盛頓會議

幣原「モリス」兩大使ハ協議ノ結果ヲ各自日米政府ニ報告シタルカ同協議ハ非公式ノモノニシテ

案出セラレタル成案モ亦何等兩國政府ヲ拘束スルモノニアラサルカ故ニ該案ヲ採用シテ正式交渉ヲ進ムヘキヤ否ヤハ兩國政府ノ決定ニ俟ツコトヲ要セリ而シテ帝國政府ニ於テハ若シ米國政府ニ於テ本案ヲ基礎トシ交渉ヲ開始スルノ意嚮アルトキハ速ニ之カ交渉ニ應スヘキ準備ト希望トヲ有シ居タルモ當時民主黨政府退キテ共和黨政府之ニ代ルノ時機ニ際シ民主黨政府ニ於テハ何等將來ヲ羈束スルノ行動ヲ採ルカ如キコトハ事ノ實質如何ニ係ラス反對ヲ招致スルコト當然ナルノミナラス當時政府ハ議會ニ於ケル反對黨ハ勿論自黨内ニ於テモ權威ヲ失墜セル際ナリシヲ以テ政府ノ調印ヲ經ルモ議會ヲ通過スルノ見込ナキノ形勢ニアリ一九二一年二月七日「モリス」大使ハ幣原大使ニ對シ政府目下ノ地位ニ顧ミ何等確定的措置ヲ採ルコトハ有害無益ナルヘキヲ憂慮スル旨ヲ述ヘ翌二月八日國務長官「コルビー」モ同様ノ意見ヲ内示セリ

其後共和黨政府トナリタル後帝國政府ニ於テハ新政府ト幣原「モリス」協約案ヲ基礎トシテ交渉ヲ開始スルノ意嚮ヲ以テ六月以後累次在米幣原大使ニ訓令シ本問題ニ對スル國務長官「ヒューズ」ノ意嚮ヲ問合サシムルコトトセルカ幾何モナクシテ華盛頓會議開催ノ議起リ九月八日「ヒューズ」ヨリ幣原大使ニ内示シタル同會議議題ニヨルニ米國政府ハ同會議ニ於テ加州問題ニ觸ルルノ意ナキカ如ク推知セラレタリ然ルニ帝國政府ニ於テハ同會議ニ於テ本問題ノ解決ヲ計ルコトモ一案ナ

ルヘシト考ヘタルモ日本トシテハ同會議ハ成ルヘク之ヲ圓滑ニ終了セシメ徒ニ難問題ヲ提出シテ事端ヲ滋カラシムルコトヲ欲セサリシヲ以テ華府會議開始前幣原「モリス」協議ノ成案ニ基キ大體ノ解決ヲ了スルコトヲ割切ナリト認メ九月十四日在米幣原大使ニ訓令シ米國側ノ意嚮ヲ確カメシムルコトトセリ

第二、移民問題ノ華盛頓會議附議ニ關スル幣原大使ノ意見

元來本問題ハ華盛頓會議ニ提出スルヲ得策トスヘキヤ又會議ト離シテ日米兩國間限リノ特殊ノ問題トスル場合如何ナル時期ニ於テ其交渉ヲ開始スヘキヤノ問題ニ付テハ慎重ナル考究ヲ要スルモノアリ此點ニ關スル幣原大使ノ所見次ノ如シ

(一) 日本側ヨリスレハ移民入國ノ問題ハ元ヨリ速ニ決定スルノ必要ナキノミナラス寧ロ現状維持ヲ利益トスルモ在米日本人ノ待遇ハ久シク現状ニ放任スルコトヲ得ス而シテ待遇問題ヲ入國問題ト分離セシメテ解決セシムルコトハ不可能ナリ然ルニ移民入國問題ハ之ヲ國內問題ト見做ス方針ハ米國政府及議會ノ屢次聲明シタル所ナルカ故ニ此際之ヲ國際會議ノ審議決定ニ委スルコトハ恐ラクハ米國ニ於テ同意セサルヘク又假ニ同意スルコトアリトスルモ華盛頓會議ニ於テハ移民問題ニ付テ英國ハ其植民地トノ關係上全然米國ト態度ヲ一ニスヘク其他ノ參列國モ亦多ク

ハ大局上米國ノ主張ニ反對スルコトヲ好マサルヘシスノ如キニ於テハ本問題ハ巴里會議又ハ國際聯盟會議ニ於ケルヨリハ一層日本ニ採リ不利ナル事態ニ至ルヘキヲ覺悟セサルヘカラス

- (二) 日米兩國間限リノ問題トシテ本件交渉ヲ開始スル場合ヲ想像スルニ近來米國政府ハ「ウイルソン」時代ノ覆轍ニ鑑ミ一切ノ外交案件ハ上院外交委員會ト始終聯絡ヲ保ツノ方針ヲ執ルカ故ニ本件交渉ノ進捗スルニ至ラハ其顛末ヲ必スヤ漸次漏洩スヘク外交委員「ハイラム・ジョンソン」ノ如キハ西部諸州ノ議員ト呼應シテ反抗ヲ試ムルニ至ルヘク華盛頓會議開會中ニ世論ノ沸騰ヲ招クコトトナラハ同會議ニ於ケル我一般ノ地位ニ不利ナル影響ヲ受クルコトナキヤヲ懸念セラルヘシ

第三、國務長官「ヒューズ」ノ言明ト帝國政府

之ヨリ先國務長官ハ幣原大使ト會見中移民問題ニ言及シ本件ハ絕エス同官ノ念頭ニ存シタル所ニシテ之カ交渉開始ノ時期ハ篤ト考量ヲ要スルモノアル旨ヲ述ヘタルコトアリシカ當時「ヤップ」問題ニ關聯シ日米兩國共ニ輿論ノ沸騰ヲ來シタル際ナリシヲ以テ幣原大使ニ於テモ更ニ時期ノ到來ヲ待チタルカ其後同問題モ解決ノ緒ニ就キタルヲ以テ九月十五日國務長官ト會見ノ機會ニ於テ同長官ノ意見ヲ質シタルニ同官ハ本件解決ニ付テハ米國議會方面トモ十分接觸ヲ保ツヲ要スヘク

又如何ナル解決案ニ對シテモ西部諸州ハ妨害ヲ試ムヘキヲ以テ日米兩國間ノ定案ノ緩和セラルル好機ヲ俟テ公平ナル解決ヲ期セントス從テ諸般ノ事情ヲ考察シ本問題ハ會議ノ終了ヲ俟テ交渉ニ着手スルコト双方ノ爲得策ナルヘシト思考スト回答セリ

然ルニ帝國政府ニ於テハ「ヒューズ」長官ノ回答ニ對シ満足スルコトヲ得サリシヲ以テ十月十八日更ニ幣原大使ニ對シ帝國政府ハ國務長官ノ意見ノ如ク華盛頓會議ノ終了後徐ニ交渉開始ノ時機ヲ考量スヘシトノ緩漫不確定ナル處置ニハ到底同意シ難ク幣原「モリス」協議案ヲ基礎トシテ交渉ヲ開始スルニ米國政府ニ於テ同意セムコトヲ希望スルニ付同政府カ右同意ノ保障ヲ與フルニ於テハ開始ノ時機ハ會議ノ直後ニ讓ルコトニ協定スルモ差支ナク又全然新ナル交渉ヲ希望スルニ於テハ會議前ニ其大體ノ腹案ニテモ承知シ度旨ヲ申入ルヘキ様電訓シタルモ其訓令執行前華盛頓會議開催セラレ本件交渉ハ一時中絶セリ

第四、幣原「モリス」協議結果採擇見合

然ルニ一九二二年春華盛頓會議終了後幣原大使ハ其歸朝前三月二十三日及二十五日ノ兩度ニ互リ國務長官「ヒューズ」ト會見シ本問題解決ノ必要ニ言及シ幣原「モリス」協議ノ案ニ對スル意見ヲ質シタルニ同長官ハ同條約ノ締結ニ依リテ本問題解決セントスルトキハ州權ノ問題ニ觸ルル

コトトナリ加州ハ此問題ヲ捕ヘテ極力條約ニ反對スヘク西部諸州モ州權侵害論ニ對シテハ加州ニ共鳴スルニ至リ竟ニ條約ハ批准ノ見込ナシ加之例ヘハ最近華盛頓會議ニ於テ締結セル四國條約ノ上院ニ於ケル討論ニ際シ反對論者中ニハ友好國ノ感情ヲ害シテ顧サルカ如キ不遠慮ナル言論ヲ敢テスルモノアリタルニ徴スレハ右ノ如キ日米條約カ上院ニ於テ討議セラレタル曉ニハ如何ナル言論ヲ試ムルモノアルヤモ知レス却テ排日熱ヲ煽ルカ如キ結果ニ終ルナキヤノ懸念ナキ能ハス從テ加州問題解決ノ方法トシテハ

- (一) 加州排日ハ要スルニ感情ノ問題ニシテ之ヲ解決スルニハ感情ヨリ改善セサルヘカラス最近對日感情ハ改善セラレタルカ如キカ故ニ此趨勢ヲ引續キ助長スルニ努ムルコト
 - (二) 加州人ハ紳士協約ハ失敗ナリト爲スモ自分ノ調査シタル所ニ依レハ満足ノ結果ヲ示セルカ如シ故ニ紳士協約カ忠實有效ニ行ハレタルコトヲ各種ノ統計ニヨリ證明スルコト
 - (三) 近來日本人側ニ於テ人頭稅其他ノ問題ニ關シ訴訟ヲ起ス者アルカ土地法ニ關スル問題ハ出來得ル限リ訴訟ニ依リテ解決ヲ計ルコト
- ノ三アルノミト辯シ幣原「モリス」協約案ヲ贊認スルノ意ナキコトヲ内示セリ仍テ帝國政府ニ於

テハ暫時華盛頓會議後改善セラレタル日米兩國間ノ感情ヲ維持増進シ以テ本問題解決ノ機會ノ到來ヲ待ツコトトセリ